

会 議 録

会 議 の 名 称	第 7 回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開 催 日 時	令和 4 年 3 月 25 日 (金) (午前・午後) 1 時 30 分 開会 (午前・午後) 4 時 00 分 開会
開 催 場 所	茨木市役所南館 10 階大会議室
議 長	山本 博史 氏 (追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授)
出 席 者	【評価委員】 山本博史氏（学識経験者）、高田和子氏（地域活動関係者）、板倉幸司氏（公募市民）、足立真美氏（公募市民） (4 人) 【事務局】 高崎市民協働推進課長、山本市民協働推進課市民活動係長、 松井市民協働推進課職員 (3 人) 【関連課・担当課】 健康づくり課、DX 推進チーム、環境政策課、長寿介護課、文化振興課 (5 課)
開 催 形 態	原則公開（傍聴者 1 人）
議 題 (案 件)	(1) 概要説明及び会議の公開・非公開の決定 (2) 各団体による事業報告及び質疑応答
配 布 資 料	・ 第 7 回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第 ・ 令和 3 年度 チャレンジいばらき補助金申請事業一覧 ・ 事業報告関係書類（個人情報を含むため省略）

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	開会及びあいさつ、本日の会議の概要説明 公開・非公開の決定について（原則公開） 傍聴者入室許可（傍聴者入室） ----- 事業報告開始 -----
団体	【自由テーマ型】 茨木市なぞときゲーム実施（配布） レクリエーションデザイン smile infeel
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・ 配布数が1回目よりも2回目の方がかなり多くなっている。なぜか。 → 1回目はイベントの中で手渡しだったが、2回目は公共施設への設置が主だったため。 ・ スポーツ推進課でも同様の謎解き事業が行われていたが、連携は考えているか。 → 今回は2回目の冊子配布時期と被った上に、先方の商品が豪華だったこともあり、委縮してしまった。連携というよりは、同時に紹介してもらうことができ、良かったと思っている。
団体	【自由テーマ型】 食育講座 特定非営利活動法人自然派食育・きちんときほん
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・ 集客は苦勞したか？ → 元々コロナの心配と会場の制約があり、定員を少なく設定したため、少人数での開催となった。 ・ 自己資金の金額が大きいのが、継続には収支バランスも大事かと思う。 → 参加費を少し上げる、もしくは定員を増やすことで対応したい。 ・ 紙芝居は今後も使えるものか。 → 今後開催する食育講座でも使用するつもりである。 ・ 調理実習室での開催だと事業の対象人数に限られる。アレルギー対応食について、レシピなどを配布すると、より多くの人への波及が見込めるのでは。 → 今回、対象が少人数に限られてしまったことは反省点。開催方法については、みんなで料理を作ることに時間を取られたため、見本をひとつ作っておいて、レシピ

	を配り、実際のアレルギーについての話をもう少ししっかりと行うなど、時間配分や進め方の工夫をしたい。
団体	【自由テーマ型】 コロナ禍の中で不安とストレス解消に向けたスマートフォン講習と YouTube への動画配信 特定非営利活動法人茨木高齢者の会
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・事業の広報について →主に団体が作成している広報誌で周知した。 ・今の PR 方法だと、会員や関係者以外への事業の周知があまり望めない。多くの人に事業を知ってもらうために、広報手段を増やすことを意識すると良いと思う。
団体	【自由テーマ型】 茨木市の「街中 野鳥図鑑」 人を自然に近づける川いい会
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・実際にその鳥がどこで見られるのか、具体的なエリアが分かるとよい。 →ざっくりと、山なのか街なのか水辺なのかということは分かるようにしているが、珍しい鳥については、図鑑を見た人が 1 か所に集まる状況が続くと、その鳥が来なくなってしまう可能性があるため、地名等を載せることはしていない。
団体	【自由テーマ型】 人生カフェ～輝く人生のレシピ集～ 特定非営利活動法人 素材探検隊
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・今回の開催にあたって、講師はどのように集めたのか。 →以前の補助金の報告会の際にいただいた、関連する人ともっと協働していくと良い、というアドバイスを参考にして、普段関わりのある人に声をかけた。 ・YouTube について、視聴者があまりいないように思う。 →シニア層がそもそもあまり YouTube を見ていないように思う。視聴数の増加については、他団体との連携などを通して工夫したい。 ・女性が多いということだが、広報の問題なのか、テーマの問題なのか、どう考え

	ているか。 →シニア層に限らず、ビジネス向けの講座は男性の参加が多いが、身近な話題や地域の講座はどうしても女性の参加が多くなると感じている。他団体とも協力しながら男性の参加者を増やせるよう工夫したい。
団体	【文化芸術振興事業】 市民参加型ダンス公演「みんなでダンス in Ibaraki」（2021 年実施）の実現に向けた市民参加型ワークショップ事業 「みんなでダンス in Ibaraki」実行委員会
担当課	【担当課 意見】 【質疑応答】 ・進捗状況報告書について、2 月の参加者数が書かれていなかったの、書いておいてほしかった。 →最新情報に更新できていなかった。実績報告書の中で報告する。（参加者 40 名） ・参加者の年齢層は。 →実行委員会はゼミ生のため、20 代。参加者は高校生から高齢者まで幅広くいる。9 割が女性だった。
団体	【文化芸術振興事業】 「茨木城主・片桐且元物語と市民による片桐且元講談の創作」 カクカタル実行委員会
担当課	【担当課 意見】 【質疑応答】 ・広報について →事業終了後も視聴可能なので、配信サイトについて広報を行おうと考えている。 ・チラシについて →予定していたイベントを中止したため、紙配布ではなく、データを SNS でのみ使用した。
団体	【文化芸術振興事業】 茨木の魅力を芸術・文化を通して姉妹都市に発信する 茨木美術協会
担当課	【担当課 意見】 【質疑応答】 ・通信運搬費のうち、交通費はどれくらいを見込んでいたのか。

山本委員長	→通信運搬費としては交通費というより、郵送費として5万円を見込んでいた。 ・創作は茨木のメンバーからはあまりなかったのか。 →茨木の作品については前年度に作成したデータを持っていた。 ・来場者数は200名とのことだが茨木市内の会場か。 →姉妹都市（小豆島町）のオリーブ園での参加者数。 他に意見はないか。以上で報告を終了する。 傍聴者退出
山本委員長	事務局から連絡事項はないか。
事務局	次回の開催は4月4日、場所は男女共生センターローズ WAM 501・502 号室を予定。
山本委員長	以上で、第7回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会は閉会とする。